

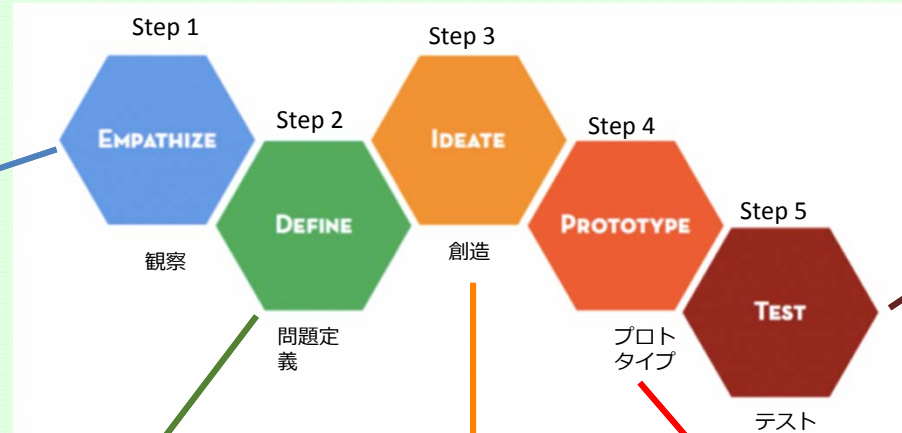
# インクルーシブデザインワークショップ

様々なリードユーザ(全盲・弱視・車椅子ユーザ)の日常生活を観察することで、我々が見過ごしている問題・価値を発見し、ユーザーニーズを明らかにし、背後に潜む社会課題の抽出から問題定義を行う。解決策を短時間でアウトプットするデザイン思考を体験し、マインドセットから視点拡大へ。



Step 1

日常の買い物や移動など、ユーザのありのままの姿を観察する。そこで得た気づきや発見を記録していく。また、積極的に質問しリードユーザとの対話の中から本人も気づいてないインサイトを発見する



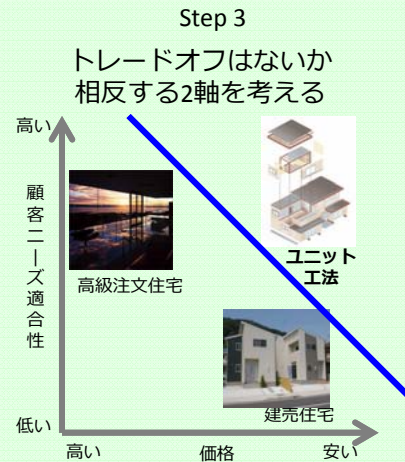
Step 5

CM発表をリードユーザに評価してもらいます。問題が解決されているのか、単に不便の解決になっていないか、ユーザー価値は明確か、などの指摘から、アイデアの修正を行います。Step1 から5Step を展開します。



Step 2

観察した内容を感情マップを使い行動と感情の相互関係を明らかにします。社会課題へと抽象度を上げて問題定義を行う事により、この後に行うブレインストーミングで創造されるアイデアの質と量が格段に向上します。



Step 3  
トレードオフはないか  
相反する2軸を考える

問題を解決するアイデアを無制限で拡散。これまでの延長線上に無いアイデアを創発します。様々なフレームワークを活用し誰もが使いたくなるアイデアをチームビルディングで1つにまとめます。



Step 4

プロトタイプ作成では、アイデアを宣伝するための1分間CMを作成します。全員参加型のスキッドを通し、誰にとってもわかりやすいPRを行います。問題定義、記憶に残るネーミング、特徴、ユーザーに対する新しい価値を短時間でシナリオにして発表